

育成会の役割と活動

東小連指導・普及委員会

1. 育成会とは

スポーツ少年団やクラブは生涯にわたってスポーツを楽しむことが出来る地域クラブを目指して活動する団体ですから、単に子供たちだけの集団ではなく、やがては大人も含めた地域集団の形成を目標としています。

従って、育成会は子供たちを財政面・労力面・精神面で支援するばかりでなく、地域に住むすべての大人自身もスポーツや文化活動を楽しむことが出来るシステムを地域に形成しようとする、極めて重要な意味と役割を持っているのです。

言え替えば、保護者の役割分担によるスポーツ少年団・クラブの経営です。

2. 育成会の役割

主体は子供たちで、活動が楽しく、明るく、自分の力が伸ばせる環境づくりをすること。

A. 団やクラブに対する支援・協力活動

① 財政面での支援活動

- (例)・単位団で共通に使用する用具や機材の購入支援
- ・各種行事開催に必要な財政支援
- ・安全保険への加入 など

② 労力面での支援活動

- (例)・合宿や宿泊交流の引率や生活指導の協力
- ・各種スポーツ活動への参加や準備
- ・各種交流活動への派遣や受け入れ事業への支援
- ・活動場所の確保 など

③ 精神面での支援活動

- (例)・単位団活動活性化のための会議開催とプログラムの提供
- ・情報の収集
- ・自己研修のための講習や研修の開催・派遣
- ・挨拶や練習時のルールなどの実行支援
- ・子供の活動に対する関心や支援 など

④ 指導者の発掘と指導者やリーダーの養成・研修への支援

- (例)・指導者との活動内容の確認や単位団指導者の人材発掘
- ・指導者やリーダーの養成・研修会への派遣支援 など

⑤ 安全面での配慮

- (例)・栄養、生活習慣など日常生活への配慮
- ・発育発達に応じた適正なスポーツ活動への配慮
- ・練習参加時の交通事故の防止策
- ・事故への応急処置などの学習

B. 団やクラブの活動への理解を広め、加入促進をはかる活動

① 団活動への理解を広めるための活動

- (例)・町内会、PTA、子ども会など各種団体への理解を広める活動
- ・学校や公民館、各種施設への理解を広める活動
- ・単位団のホームページ作成や新聞社などへの広報活動

② 団やクラブへの加入促進活動

- (例)・未加入子どもへ加入の働きかけ(手紙や大会応援のお知らせなど)
- ・未組織地域へ加入の働きかけ
- ・団員募集のポスター、チラシ配布やマスコミへの広報活動

C. 育成会集団のスポーツや文化活動

- (例)・スポーツ、文化活動種目のアンケート調査

- ・アンケート調査に応じた種目や科目別グループの形成
- ・育成会団員の親睦会、スポーツ交流会の企画や実施
- ・育成会団員、指導者、団員の合同スポーツ大会やレクリエーションの企画や実施

D. 育成会活動への理解を広め、仲間を増やす活動

(例)・地域内で理解を広めるための研修、講習会の企画や開催

- ・活動内容別グループの拡大
- ・他のスポーツ団育成会との交流実施
- ・子供の好きな団体や組織などよりのスポンサーや支援者の募集活動

3. 育成会の作り方と運営

育成会の作り方や運営方法は、基本的にはPTAなどの組織と同じです。

最初は別紙(参考例)のように目的や組織、役員とその選び方や任期、会議と決定の仕方、会費と会計などを文章にして、公平で平等の原則をお互いに確認することからはじめます。

このような規約(会則)は、日常的には常識で運営出来る事ですが、毎年総会で確認しあっておくことが大切です。

- ①会員は、団員の保護者、スポーツや青少年活動に理解のある方、町内会や商店会などスポンサー的な理解者、元団員や元保護者などの経験者などで構成すると良いでしょう。
- ②役員の名刺や役割分担は、分かりやすい名刺で、無理のない人数で始めよう。
組織も大きくなり、活動も充実したら規約を改正して、適切な役割を作ると良いでしょう。
- ③会費は、どのような活動をどれだけするかで決まります。一人いくらという決め方が一般的ですがファミリー会員の会費や賛助会員の会費など、かわり方により会費を設定する方法もあります。いずれにしても、無理のない額で運営することが大切です。
会費は、会計担当を複数人で担当し、明朗会計をモットーとして処理しよう。
- ④目的と事業計画は、団活動と育成会活動と区分します。しかし、相互に合同で行うことが多いので確認して進めよう。そして、事業計画を無理なく進める方法や話し合いの場が、自由で公平な関係のもとで持てるようにしましょう。
特に団の活動内容について、指導者と綿密な打ち合わせを行い、次のような事を決めて置くとう良いでしょう。
イ、事業計画 ロ、団やクラブの目標 ハ、指導体制 ニ、指導方針 ホ、団員一人ひとりの活動目標などを作成し、活動が充実したものにしましょう。
- ⑤団との関係や指導者との関係は、相互に調整や協力をし合うことが大切です。事業計画も団あつみの育成組織であることを考え、学校行事や地域の行事などとの調整をしながら、良い関係で進めましょう。
- ⑥保護者の中には、仕事の関係で休日の活動に参加できない方もいます。そのような方への配慮も欠かさない方法で、お互いに協力し合っていきましょう。
- ⑦育成会員がメンバーになることに「誇りと喜びを持てるような運営」を心がけましょう。
そのために、共通の理解を持てるような交流・親睦の機会や研修会を作りましょう。また、常に予定表や状況報告をすることも活動の中に入れましょう。会報などの発行も良いでしょう。
- ⑧賛助会員や協力団体などは、青少年活動やスポーツ団体への理解があり、かつ品位のある団体を選びましょう。
- ⑨同じような活動をしている、他の育成会との話し合いや交流の機会を作り、お互いの良いところを学びあいましょう。

育成会員の役割と協力依頼事項

*選手・父母・指導者が一体となり、楽しく、伸び伸びと、明るく、チーム目標と個人目標を達成する為に、ご協力と支援をお願いします。

1. 選手(子供)への気配り

- ・集合時間、大きな声での挨拶、大きな声での返事や発言などなど約束事は守らせましょう。
- ・挨拶・返事は全ての生活の基本です。家庭でも元気にハキハキと出来る様に指導下さい。
- ・練習や試合などに行く時の持ち物は、子供に準備させ、親がチェックする方法で行って下さい。
(自分の持ち物を知る事と忘れ物防止の為に。親が用意すると子供は分かりません)
- ・子供の生活の時間割を明確に作成し、学習とバレーが両立できる様に、日頃から指導下さい。
(日常生活や勉強も集中して、自分から進んで実施する様、指導しましょう)
- ・子供の食事はスポーツマンとしてのメニューを毎日考え、しっかり取らせてください。
- ・子供同士でバレーのうまい、下手の判断をし、差別や意地悪をさせない様に、気配り下さい。
又、チームワークを大切にする為に、他の子供の欠点や望む事を子供に言わない様にしよう。
更に、子供のプレーの少ない「良いところ」を見つけ出して、家庭でもほめてあげましょう。

2. 練習時の対応

- ・体育館の確保や指導者の出席確認、育成会員への連絡などきめ細かく連絡を取り合います。
- ・練習場への移動時、交通事故などに合わない様、近所の子供は同伴送迎などを考慮下さい。
事故防止の為に、単独移動や帰宅はさせないようにしましょう。
- ・子供の参加・不参加や体調は事前に指導者や当番の方に連絡して置きましょう。
- ・練習時のスタイルは短パン+Tシャツ又は長袖シャツとバレーシューズがベストです。
- ・指導者からボール拾い、ボール渡し、指導の手伝いなどを依頼されたら協力しましょう。
- ・手が空いている時はボールの清掃や道具置き場などの清掃や整理をしましょう。
- ・練習は厳しいもの、苦しいものと受け入れ、子供への励ましや声かけをしてあげましょう。

3. 練習試合・公式試合の対応

- ・会場や参加人員、輸送手段、配車計画、持ち物の準備と確認を分担して行おう。
年間を通じて実施者をグループ分けして置くと忘れ防止になります。(一人の負担も軽減できます)
- ・育成会員でベンチに入る時、コーチはメンバー表の提出、サーブ準の確認・指示、点数確認・記録を、マネージャーの方はタイム時のタオルや給水、監督指示の伝達、ベンチ選手の指導などを行うと良い。
- ・食事は次の試合を考え、細かく分割して取らせると良いでしょう。ベンチ横には飲料水やタオルを準備可。
- ・応援は子供の試合なので熱くならず、さわやかに。両チームのナイスプレーには拍手とほめる声援を。
- ・相手チームの育成会員や指導者とも挨拶し、交流を深め、互いに切磋琢磨しよう。
- ・チームカラーを統一する為、トレーニングウェアは可能な限り同一としたい。OBやOGのお下がりを活用するなどして、子供の気持がバラバラにならない様、気配りしましょう。
- ・審判や記録の作成、コーチ、マネージャーの業務が必要となるので、練習の時から進んで実施しよう。
可能であれば審判資格やスポ少資格を取ることにチャレンジしよう。
- ・自分のチームが大会の会場担当になった時は、全員が協力し合い、選手控え場所、応援場所、駐車場を準備し、気持ちよく試合できるようにしましょう。

4. 指導者との対応

- ・指導者とはきめ細かく接触を図り、団やクラブの年間の活動指針を明確に作成しましょう。
特に、年間や半期ごとの団・クラブの目標、指導目標、指導内容、指導体制などを育成会役員などと一緒になって作成しましょう。綿密に運営する為、団やクラブ、育成会の規約などを作成しましょう。
- ・毎月の練習計画は学校活動中心に、練習場所、練習時間、前後の試合計画を織り込み作成しよう。
- ・団員やメンバーが居ないと、きめ細かな練習が出来ません。団員募集活動は年間を通じて「しつこく」実施しましょう。練習の見学会とか初心者ソフトバレー教室とかを開催し、学校を巻き込んで実施しよう。
- ・子供のレベルアップの為に、指導上の問い合わせや要望、心配事や問題点も指導者に早く相談し、話し合っってトラブルや退団にならないようにしましょう。改善にはバレー日誌などを配布し、子供の悩みや希望、仲間との関係、自分の考えを記入させ、確認すると共に指導者に知らしめましょう。
- ・子供と指導者との関係は育成会員には気になる所ですが、気になったら早めに話し合いましょう。

5. 育成会員同士の対応

- ・育成会員も選手と同じです。仲間を大切に、仲良く、失敗しても指摘せず、協調性を持って和やかに運営しましょう。
- ・育成会員もチームと同じく、役割分担し、1人に負担が掛からないように、分担して運営しましょう。
- ・育成会は団やクラブの育成と運営・経営管理を行うものだと認識に立って、活動しましょう。
- ・子供を育てるのは母のみとならずに、父親同士の交流も図り、皆で地域の子供の育成、バレーボーラーの育成に協力しましょう。

小学生バレーボール試合の応援マナーについて

東小連
総務委員会
育成委員会

1. 車について

- ・試合会場への車の台数は、既に配布している「駐車カード」枚数以内で、お願いします。応援や送迎などで勝手に駐車場を利用しないで下さい。
- ・規定台数で駐車する車には、車のフロント部に「駐車カード」を提示し、チーム名が判明するようにして下さい。
- ・駐車場内の互いの移動や事故対応については、両者間で処置願います。

2. 喫煙について

- ・全ての学校内は、「禁煙」です。また、借用施設の時は、規定を守り、喫煙は決められた場所のみでお願いします。その場所以外や歩きながらの喫煙は絶対しないで下さい。
- ・吸殻は各自で携帯灰皿を使用するなどして、必ずお持ち帰り下さい。(ポイ捨てなどしない事)

3. 試合観戦について

- 試合を観戦するには、いくつかのマナーがあります。必ず対戦相手・審判がいなければ試合は出来ません。よって、選手だけでなく、応援する方たちも、対戦相手・審判に敬意を払うことが必要です。また、試合を行うのは「選手・子供達」です。大人が子供になり過ぎないようにしましょう

①観戦場所

- ・ベンチには、選手、監督、コーチ、マネージャーしか入れません。応援の保護者は指定された場所で見学・応援しましょう。又、試合に不必要な物(カート車)は持ち込まない事。
- ・観戦場所が指定された場合、試合コートと重なった時は、譲り合いして応援してください。「邪魔だからどいてくれ」等と多人数で場所取りをしない事。
- ・ステージや主審側後ろが観戦場所の場合は、主審のハンドシグナルが分かるようにベンチと同じく、アタックラインより後方にて応援すること。
- ・選手控え場所(昼食場所)も、全チームが確保できる様、譲り合いしましょう。

②ベンチ外からのコーチング

- ・試合におけるアドバイス、指示は監督又はコーチが行うものです。応援の保護者は「純粋な応援」に徹しましょう。

③対戦チーム

- ・対戦チームのミスに拍手をしたり、「下手な選手を攻めろ！」等の暴言を吐いたりする事は言うまでも無くマナー違反です。自チームだけでなく、対戦チームのファインプレーにも拍手を送ることが出来ると理想的です。

④審判(含むラインズマン)の判定

- ・審判の判定に大声で文句を言ったりする事は絶対やめましょう。また、試合後にも判定への軽はずみな言動は避けなければなりません。チームの質が問われます。

⑤これだけはやらないで！

- ・選手批判:対戦相手はもちろん、自チームの選手(特に自分の子供)には、気をつけましょう。「へたくそ！」なんて言わないで下さい。皆一生懸命なんです。
- ・「鳴り物」使用の応援、「メガホン」での床たたき・手すり叩き、足裏での「床踏み音」応援は不可です。大人は「拍手」のみとしましょう。
- ・審判が「吹笛」後の声援(ソーレー・行け)など、選手がチーム内で出す声以外は、出さないようにしましょう。吹笛が聞こえなくなります。
- ・プレー中の大人の大声(打て、ソーレー、右だ、アウト、セーフ等)は、選手(子供)のプレー中であり、応援ではないので、やめましょう。
- ・チームの「タイム」や「セット間」の時間は、拍手や激励の応援は声を出しても良いでしょう。但し、子供達がびくびくするような、怖がるような大声は避けましょう。
- ・指導者批判:自チーム及び対戦チームの監督などの批判はやめましょう。(どうしてうちの子出さないの?、あんな戦術だめだ!、怒ってばかりいるよ!)
- ・保護者も選手(子供)と一緒にになって、応援席で、「一本カット」などの声援はやめましょう。試合をやるのは選手です。